

新しい学校づくりだより ⑥



3月26日 生徒会サミット

生徒の皆さんと新しい学校づくりについて意見交換しました

市内四校の生徒会役員の皆さんが集まり、意見交流をする「生徒会サミット」が行われました。須坂市教育委員会も参加し、「須坂学園構想基本方針案」と「須坂市の小中一貫教育」について説明をさせていただきました。説明を聞いて、各校でグループ討議と意見交換をしました。

「学年を超えて交流することでコミュニケーション能力が高まり、社会に出たときに生かせる力が身に付きそうだった」「新しい学校の姿をみて、自分の可能性や自分の力が伸ばせるような気がする」といった意見が出されました。

「今までの小学校は6年生がリードしていたが、校舎が分かれることで低学年をまとめるひとはどうなるのか」

「小学校から中学校へのギャップが解消されても、高校入学時にギャップを感じるのではないか」「義務教育学校と小中一貫型学校の二つがあるのはなぜか」という意見や、「四つの学園同士が交流できるようにしてほしい」というアイデアも出ました。

中学生の視点からの貴重な意見は、とても参考になり、今後役に立てそうです。



4月1日 新年度がスタートしました

須坂市教職員 須坂学園構想基本方針案オンライン説明会

新年度がスタートし、須坂市内の全学校の教職員を対象に、「須坂学園構想基本方針案」「須坂市の小中一貫教育」について、オンライン説明会を行いました。

「少人数では人間関係も固定化しがちになると思います。多様な価値観に触れる機会をつくっていくという意味でも大事な考え方だと思いました。」

「子どもの人数が減ってきている中、廃校になるわけでもなく、地域で学園を作っていこうという姿勢がいいなと思いました。」

「小中一貫教育を考えていくことは大きな改革であり、多様な学びができることによってそれに対応し、必要とされる生きる力を育むことが可能になっていくと考えられるよい機会だと思う。」など、期待の声をいただきました。

「少子化に伴う児童減少は避けられないが、子どもたちが意欲的に学べるような配慮が一番大切だと感じた。課題が多くある中大変だとは思いますが、地域とともにある学校にすることを願います。」「保護者から、学区や環境が変化する不安、システムの変化により他地区との教育の差が不安になるなどの声もあります。生徒、保護者、教員にとって分かりやすい形で進めていければと思います。」などの意見もいただきました。

子どもたちを主人公に、新しい学びを実現する学校づくりを考えていきたいと思えます。